

N
O
O
9

独立行政法人 国立博物館
年報
平成18年度

平成18年度 年報 目次

I	18年度事業実績報告	
	【法人全体】	1
	【東京国立博物館】	
	i. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置	
	1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、 次代への継承	34
	2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	46
	3. 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化	85
	ii. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	89
	【京都国立博物館】	
	i. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置	
	1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、 次代への継承	93
	2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	100
	3. 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化	120
	ii. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	124
	【奈良国立博物館】	
	i. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置	
	1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、 次代への継承	127
	2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	134
	3. 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化	156
	ii. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	160
	【九州国立博物館】	
	i. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために とるべき措置	
	1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、 次代への継承	163
	2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信	173
	3. 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化	192
	ii. 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	197
II	施設概要	199
III	財務諸表	203
IV	評価	
	1. 文部科学省独立行政法人評価委員会評価	224
	2. 独立行政法人国立博物館外部評価委員会評価	255
V	日誌	261
VI	運営委員・評議員、外部評価委員及び組織図・役職員名簿（非常勤職員含む）	271
	附属資料：事業実績統計表	293

2. 運 営

○方 針

18年度は、独立行政法人化後第2期目の中期計画の初年度に当たると同時に、国立文化財機構設立前の最終年度に当たることから、「平成17年度末に中期目標期間が終了する独立行政法人の見直しについて」（平成17年12月24日行政改革推進本部決定）を踏まえた上で、

- ① 日本及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点として収蔵品を整備し、文化財を良好な状態で次代へ継承していく
- ② 日本文化を国内外に発信することにより、日本文化の向上・発展に努める
- ③ ナショナルセンター機能を強化し、国内の博物館の発展に寄与する

の方針に従い、以下の事項を重点的に事業を実施した。

1. 平常展の活性化
2. 国際文化交流の推進
3. 安定的に事業を実施するための自己収入の増加
4. 調査研究成果の展示への反映

○実 績

1. 平常展の活性化

平常展を展観事業の中核と位置付け、活性化を目指し様々な取組みを行った結果、平常展入館者数は17年度に82万人だったものが、18年度には115万人と40%以上の増加を達成することができた。

<東京国立博物館>

- ・「没後百年 林忠正コレクション ポール・ルヌアール展」「東洋の名品 唐物」等の特集陳列を開催
- ・来館者調査を実施

来館者の調査を平常展と特別展それぞれで計12日間実施し、1,638件の回答を得た。得られた結果は、来館者の属性、施設や展示への満足度、関心の範囲など様々な視点から分析し、今後の運営に結びつけていく予定である。

<京都国立博物館>

- ・「齊白石とその周辺」「高僧の書」等の特集陳列を開催

<奈良国立博物館>

- ・平常展リニューアルの実施
展示レイアウトの一新と照明の増設
「注目の逸品」展示を新設

<九州国立博物館>

- ・「寧波と日中の文化交流」「日田市ダンワラ古墳出土鉄鏡」等の特集陳列を開催

2. 国際文化交流の推進

日本文化の海外への発信や文化交流の推進に寄与するため、また海外の博物館・美術館関係者から博物館活動に対する示唆を得るため、様々な方法で国際交流に積極的に取り組んだ。

<東京国立博物館>

- ・海外展3件を開催
「日本文化の輝き—東京国立博物館名宝展」（ニュージーランド国立博物館テ・パパ・トンガレワ）

「中日書法珍品展」(中国 上海博物館)

「日本」(カナダ ポワントカリエール モントリオール考古歴史博物館)

・アジア国立博物館協会 (ANMA) 設立準備への参画

<奈良国立博物館>

・韓国国立中央博物館「燦爛たる千年の光—螺鈿漆器」に協力

<九州国立博物館>

・韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館、南京博物館と学術交流協定を締結

<四館>

・国際シンポジウムの開催

3. 安定的に事業を実施するための自己収入増加方策

自己収入予算額が、17年度の約6.8億円に対し18年度は約3.6億円 (54%) 引き上げられ約10.4億円となったことを受け、文化財の収集・保管・展示・調査研究の事業の継続や東京国立博物館の東洋館などの施設の緊急を要する耐震対策の財源確保のため、自己収入増加方策として10月1日より平常展料金を改定した。(東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館)

<東京国立博物館>

一般420円→600円 大学生130円→250円

<京都国立博物館、奈良国立博物館>

一般420円→500円 高校・大学生130円→200円

※九州国立博物館は改定なし

なお、実施に当たっては4月より半年間の周知期間を設けるなど、円滑に料金改定が行えるよう細心の注意を払い、実施した。

4. 調査研究成果の展示への反映

調査研究に計画的に取組み、その成果を展示等の博物館業務へ反映させた。

<東京国立博物館>

・11年度より継続して行った「日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」(科学研究費補助金) から得られた知見を基に、関連作品を一堂に会した特別展「仏像 一木にこめられた祈り」を開催

<京都国立博物館>

・近年の京都市街地の再開発に伴う京焼の発掘調査により、江戸時代を通じた京焼の変遷が明らかになり、特別展「京焼—みやこの意匠と技—」が実現

<奈良国立博物館>

・文化庁の「子島曼荼羅(国宝)」の復元模造事業に協力し、特別陳列「国宝 子島曼荼羅」において復元模造及び原品を並べて展示

<九州国立博物館>

・「寧波を中心とした日中交流の関係に関する調査研究」(科学研究費補助金、研究分担) の成果を基に、特集陳列「寧波から見た日中の文化交流」を開催

○自己点検評価

【トップマネジメント】

役員会 開催回数6回 国立博物館の運営方針を決定する会議として理事長のリーダーシップの下、独立行政法人文化財研究所との法人統合等、運営を大きく左右する案件に対応した。

19年4月の文化財研究所との法人統合への対応

文化財の保存・活用を一層効率的かつ効果的に実施する観点から、「行政改革の重要方針（閣議決定 平成17年12月24日）」において19年4月の文化財研究所との統合が決定され、17年度末より文化庁と国立博物館・文化財研究所の両法人から成るプロジェクトチームを立ち上げ準備を進めてきた。

博物館としての中核的な機能を一層充実しつつ、統合効果による効率的な運営ができるよう、望ましい組織の在り方の検討等を行った。

①統合による削減効果

理事 6人→4人、一般管理費を統合後5年間で10%削減（年間1億6,300万円）。

②黒田記念館

所屬を東京国立博物館へ移し、一体的な運営を図ることにより公開の機会を拡大。

③保存修復のナショナルセンター

東京文化財研究所に保存修復科学センターを設置。保存修復部門の研究員を集約することにより、ナショナルセンター機能を強化。

【外部有識者の提言への対応】

国立博物館が外部有識者からの提言を受ける場としては、以下の会議がある。

1. 国立博物館運営委員会
2. 国立博物館外部評価委員会
3. 各館における評議員会
4. 文部科学省独立行政法人評価委員会

これらの会議を通して受けた提言は法人として検討した上、できる限り対応し、運営に反映していきたいと考えている。

【評価】

各事業の詳細は、18年度実績報告書に譲ることとするが、全体としては運営方針に基づき着実に成果が上げられたものと考えている。

今後は19年4月の文化財研究所との統合により、両法人が有する人的・物的資源を最大限に活用し、効率的かつ効果的に目的を達成できるよう、準備を進める必要がある。

【その他】

「我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化」として年度計画で挙げられていた「文化財研究所と協力した研修プログラム」については、「文化財研究所と協力した研修プログラムについて検討する。」と年度当初計画しているが、具体的な成案を得るには至っていない。統合後、具体的な検討をしていく必要がある。

「仏像 一木にこめられた祈り」(共催展)



○方針

一本の木から仏像を彫り出す一木彫刻は、奈良時代に成立し、平安時代の鉦彫像、そして江戸時代の円空、木喰へと日本独自の展開をみせた。民衆の信仰と深く結びつきながら、脈々と生き続けた一木彫像の歴史をたどる。

- 1) 開会期間 10月3日～12月3日(54日間)
- 2) 会場 平成館 特別展示室第1室～4室
- 3) 主催 東京国立博物館、読売新聞社
- 4) 陳列品総件数 65件(146軀)うち国宝4件、重要文化財36件
- 5) 入館者数 33万5,489人(目標15万人)
- 6) 入場料金 一般 1,500円 高校・大学生 900円 中学生以下無料
- 7) 担当 岩佐光晴情報課長ほか2人
- 8) アンケート結果 満足度82.3%

展覧会の内容

仏像は、仏教とともに中国から朝鮮半島を経て日本に伝わって以来、外来の影響を受けながらも、日本の風土や文化的な伝統によって変容し独自の展開を遂げた。インドにおける檀像彫刻の流れを受け、像の大半を一本の木から彫り出す一木彫が数多く制作されるようになり、以後仏像を木にこめられた祈りの造形として捉える精神は脈々と受け継がれ、江戸時代の遊行僧である円空、木喰の仏像へと至った。本展では、日本の木の文化の象徴ともいえる一木彫の仏像彫刻を一堂に展示した。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・一木彫の展開を通観するという展覧会のテーマが明確であり、展示デザイン、広報、図録等と有機的に結びついて、強いメッセージを送ることができた。その結果、多くの観客に好意的に受け入れられ、入場者数、図録販売数は当初の予想を大きく上回った。
- ・照明効果について事前に周到な実験、準備を行うことにより、作品の魅力を引き出す十分な効果が得られた。
- ・共催者以外のマスコミの対応も極めて好意的であった。展覧会の質の高さによるものと思われる。

【見直し又は改善を要する点】

- ・会場の混雑に対応するため、当初予定になかったパーティションを設置しなければならない箇所が生じた。露出展示作品の安全性の確保については、事前に十分に検討しておく必要がある。
- ・キャプションや解説の掲出位置が適切とはいえない部分があった。会場レイアウトの設計に際し、サインやグラフィックの位置についても事前に詳細な検討を加えておく必要性を改めて感じた。

「大絵巻展—国宝「源氏物語絵巻」「鳥獣戯画」など一堂公開—」（共催展）



○方 針

卷子という横に長く展開する、しかし天地の幅には制約のある画面を用いた絵巻の特性に注目しながら、平安時代から江戸時代に至る絵巻の代表的な作品によってその魅力に迫る。また、絵巻を臨場感をもって鑑賞することができるようにビデオなどを採用して、展示の工夫をする。

- 1) 開会期間 4月22日～6月4日
- 2) 会 場 特別展示館
- 3) 主 催 京都国立博物館、読売新聞社、NHK 京都放送局、NHK きんき、メディアプラン
- 4) 陳列品総件数 52件（うち国宝18件、重要文化財27件）
- 5) 入館者数 18万6,772人（目標 6万人）
- 6) 入場料金 一般1,300円、高校・大学生900円、小・中学生400円
- 7) 担 当 若杉準治
- 8) アンケート結果 満足度76%

展覧会の内容

現存する最古の絵巻「源氏物語絵巻」や「鳥獣戯画」「信貴山縁起」といった古典的な名品をはじめ、「病草紙」「紫式部日記絵巻」「法然上人絵伝」など多くの国宝を含む約50件を、絵巻の特性や物語の表現方法、絵巻を描いた画家たちなどのテーマを軸に紹介した。



開館前の様子

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・ 絵巻の特性（横に長く展開する画面を持つこと、物語を描いた絵画であること）に鑑み、各作品をできるだけ長く展示し、また物語の理解を助けるために、場面の内容を説明する解説パネルを掲示したことで、「うれしいのは、絵巻が長く巻き広げられ、物語の推移が分かるように配慮されていること。漫画の吹き出しに相当する登場人物のせりふに現代語訳を付けるなどの工夫も凝らされており、絵巻がグッと身近に感じられる。」（毎日新聞）や「長い絵巻は一部分のみが展示されるのがふつうだが、今回は半分を一挙に公開。さらに展示替えによって残りの半分を公開。観客は長い画面の中をゆっくり目を移しながら、物語の世界に没入できる。」（産経新聞）等の評価を得た。
- ・ NHK 公開セミナー（4月25日、27日）やNHK 大阪文化センター特別講座「大絵巻展～見どころ解説と鑑賞～」（5月19日）などに当館研究員が講演し、展覧会の更なる理解促進に努めた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・ 順路や作品配置に工夫をしたが、それでも接近してしか鑑賞できない絵巻の性格のため、入館者数のわりに混雑が生じ、著名な作品を中心に、一時間以上の待ち時間を生じ、観覧者の不満の原因となった。今後はさらに順路や配置を検討するとともに、整理券の発行など混雑緩和の方策について検討したい。

「第58回正倉院展」(特別展)



○方 針

昭和21年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁から例年約70点の貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、本年度で58回目を数える。奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多く、奈良朝文化に一定の知識を有する研究者に対しても十分な満足感を与える展示を目指す。

また最近の新しい調査結果を反映させる内容となるように配慮する。

- 1) 開会期間 10月24日～11月12日
- 2) 会 場 東・西新館
- 3) 主 催 奈良国立博物館
- 4) 陳列品総件数 68件(うち初出陳13件)
- 5) 入館者数 28万3,515人(目標16万人)
- 6) 入場料金 一般1,000円、高校・大学生700円、小・中学生400円
- 7) 担 当 梶谷亮治、内藤榮 ほか12名
- 8) アンケート結果 満足度67%

展覧会の内容

聖武天皇と光明皇后御遺愛品の品々をはじめ、東大寺ゆかりの儀式具・荘厳具、仏具、献物几・献物箱等を出陳し、正倉院宝物の全容が概観できる内容とした。今回は特に聖武天皇の崩御から1250年の記念の年にあたり、16年ぶりの公開となる「国家珍宝帳」をはじめ、聖武天皇ゆかりの品々を展示した。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・聖武天皇の崩御から1250年にあたる今年の正倉院展は、宮内庁正倉院事務所の協力により、例年17日間のところ20日間開催できた。また読売新聞社の全面的な広報協力を得ることができ、過去最高の入場者数を記録した。
- ・フォルテピアノコンサートやオペラ公演・お茶会・留学生の日など関連行事の開催や、外国人向け及び子ども向け音声ガイドの導入など、幅広い層にアピールでき、参加者や利用者からは好評であった。
- ・混雑緩和のため、会場入口3箇所及びホームページで混雑状況と待ち時間を表示した。また最寄りの交通機関である近鉄奈良駅とJR奈良駅とも連携して混雑状況表示を行い、比較の入場しやすい時間帯を告知した。
- ・スムーズな流れを実現するため、定時的な入場制限と外部スタッフによる人員整理を行い、展覧主旨と主要作品を記載した会場内見取図を会場の外で事前配布した。また、音声ガイド解説展示品で混雑しないよう、展示品配置を考慮した。
- ・皇太子同妃両殿下にご来館いただき、正倉院展の概要説明及び会場内では聖武天皇が愛用したといわれる七条刺納樹皮色袷裳などを研究員が説明した。
- ・自記記録温湿度計を1ヶ所設置し温湿度管理に努め、この他にデータロガー(電子記録式温湿度計測器)を12ヶ所に設置し、詳細なデジタルデータを得た。今後の環境管理の為のデータとなる。

【見直し又は改善を要する点】

- ・比較的快適に鑑賞できる時間帯を勧める広報を積極的に行い、旅行会社には混雑時間帯をはずしてもらいよう協力を行っていく。また列ができやすい作品等の周辺では誘導を実施するなどスムーズな流れを作る必要がある。

「プライスコレクション 若冲と江戸絵画」

○方 針



アメリカ・カリフォルニア州のエッコ&ジョー・プライスコレクションは、魅力に満ちた江戸絵画の収集で世界的に知られており、伊藤若冲や長沢芦雪の作品などに注目してこの分野の新たな価値を発見したことで高く評価されている。

本特別展はコレクションの収集50年を記念して開催するもので、江戸絵画の豊かな色彩、明確な形態感覚、細やかな描写を鑑賞する絶好の機会を来館者に提供した。

- 1) 開会期間 19年1月1日～3月11日 62日間
- 2) 会 場 九州国立博物館 特別展室 3階、
同 文化交流展室 4階
- 3) 主 催 九州国立博物館、日本経済新聞社、
西日本新聞社、TVQ テレビ九州
- 4) 陳列品総件数 109件
- 5) 入館者数 30万0,171人 (目標 5万人)
- 6) 入場料金 一般 1,300円 (1,100円)
高校・大学生 1,000円 (800円)
中学生以下 無料
* () 内は団体
- 7) 担 当 畑靖紀 (企画課) ほか1人
- 8) アンケート結果 未実施

展覧会の内容

プライスコレクションの約600件の絵画から109件の優品を選び、「正統派絵画」「京の画家」「エキセントリック」「江戸の画家」「江戸琳派」の五部構成で展示した。このうち伊藤若冲の絵画を最も重要な作品と位置付け、その17件を「エキセントリック」に中心的に展示した。加えて特に「京の画家」では長沢芦雪に、「江戸琳派」では酒井抱一、鈴木其一に焦点をあて会場を構成した。



○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・伊藤若冲を中心とする江戸時代・十八世紀の絵画作品を本格的に紹介する九州では初めての機会として来館者の好評を得た。「光の演出」などの新しい展示方法を模索することによって、従来の特別展に比較して二十代、三十代を中心とする年代の来場者が多く、新たな来館者層の開拓に成功したことは特筆される。
- ・三階「特別展室」に加え四階「文化交流展室」の一部も会場とすることで、来館者の多い文化交流展（平常展）室でも出陳作品をお楽しみいただき両者の連携を図ることができた。
- ・福岡市動物園・マリンワールドなど近隣機関の協力を得て動物剥製標本を一階エントランスホールに展示し「きゅーはく動物園」を開催するなど、教育普及プログラムを三つの内容で展開した。特に無料来館者ゾーンにおいて自由に参加できる関連企画は来館者の好評を得た。

- HP 上に来場者が書いた個人ブログのリンク集「ぶろぐるぽ」を作成し、時流を意識した新たな方法で展覧会情報の発信を試みた。

http://www.kyuhaku.com/pr/exhibition/exhibition_blogrepo01.html